

【学校長式辞】

瓜破東小学校創立50周年記念式典開催にあたり一言ご挨拶申し上げます。

本日、公私ご多用にもかかわらず、多数のご来賓の皆様にご臨席を賜り錦上花を添えていただき厚くお礼申しあげます。本来なら多くの方々をお招きし一緒にお祝いするべきところですが、コロナ禍の中人數を制限した上での開催となりとても残念です。ご理解のほどよろしくお願ひいたします。

この地域は昭和30年に「中河内郡加美村」「長吉村」「瓜破村」「矢田村」が大阪市に編入され大阪市東住吉区となりました。大阪市に編入されたこともあり市営住宅、府営住宅等の建設ラッシュが続きました。その影響で大阪市立瓜破小学校の児童数が膨れ上がり対応しきれなくなっていました。そこで、瓜破小学校東分校の話が持ち上がりました。市は、瓜破霊園に続く小高い丘で大津（オオズ）と呼ばれていた田畠が適当だと判断し土地を買収し校地としました。昭和45年には大阪市立瓜破小学校東分校として開設を果たしました。当時は1年生から3年生までの3学年分しか教室がなく4年生以上はまだ瓜破小学校に通っていました。そして**昭和46年「大阪市立瓜破東小学校」として独立開校しました**。当時の児童数は968名で教室等を確保するためその後、第6期工事まで増築工事が続いていきました。

当時できたての瓜破東小学校を学校として機能させていくには、多くの環境整備が必要となりました。瓜破東小学校は開校当初から教職員、PTA地域が協力し子どもたちにとって一番適した環境を作るため努力を重ね学校の環境が整えられてきました。

開校当時から本校は、自然環境や生き物とのふれあいを大事にしていました。「願いの森」という場所もありました。木がたくさん植えられておりその枝や葉っぱの間から木漏れ日が降り注ぎとてもリラックスできる場所だったようです。また、創立30周年に合わせて教職員、PTA、地域の方、瓜破東会の方々が力を合わせて作った「めだか池」「夢の小川（ビオトープ）」では今でもザリガニが川底を歩き、ザリガニ釣りができます。創立40周年の年には**校庭の芝生化**が実施されました。この時も、教職員、児童、保護者、地域の方々が力を合わせて作業しぬくもりのある校庭となりました。今でも管理作業員さんが芝生の管理をしっかりとしてくれています。このように今ある瓜破東小学校は、これまでの多くの方々の学校に対する強い想いのもと築きあげられてきました。これからもこの思いを受け継いでいってほしいと願っています。

さて、児童のみなさん。50周年の節目に当たり皆さんに伝えておきたいことがあります。瓜破東小学校の**校訓**は「**自ら学ぶ子**」です。「校訓」とはこんな子どもに育てたいという学校の願いのようなものです。これは50年変わっていませんこれからも変わることはありません。

「**自ら学ぶ**」とは、**自己自身で学びを進め深めていくこと**です。少し難しいかもしれません、一方的に教えてもらうのではなく自分で考え解決していくことです。50年前にもうこの学校は自分で学ぶことの大切さを柱に学校での勉強や行事等を進めてきました。瓜破東小学校での学びが皆さんのこれから成長に生かされることを願っています。これから日本の日本を担う大人に成長してください。

ご来賓の皆さん本日はご臨席たまわり誠にありがとうございます。本校を卒業した卒業生は、成人して他の地域に行ってもやがて瓜破東に戻ってくることが多いと聞いています。それほど、瓜破東地域は人を受け入れる温かな土地柄だと思います。これからも子どもたちの健全育成にご協力を願いいたします。

最後になりましたが、本校創立50周年という節目に記念事業推進にご尽力いただきました事業委員会の委員の皆様方及び地域の多くの方々に心よりお礼申し上げ式辞といたします。

令和3年10月30日

大阪市立瓜破東小学校校長 大野 忠司